

# 虚の符

洪水企画 2022.1.1

ソラ  
イカダ

## 28

http://www.kozui.net

### 31と17 平井達也

歌人のぼくと俳人のあなたは  
ときどき31と17について  
ケンカをしましょう

短歌といえは  
31 = 2<sup>5</sup> + 6<sup>2</sup>  
俳句といえは  
17 = 3<sup>2</sup> + 2<sup>3</sup>

公約数を持ちようのない二つの素数  
似ているようで

本当はわかりあえないばかり  
仕方なく二人は一体となり

31 + 17 = 48  
48 = 2<sup>4</sup> × 3

肩に不吉な蠅がとまっているのはどちらだ

### スノウドーム 神泉 薫

音もなく  
しんしんと  
私たちの大地に  
降り積もるのは  
淡くひかる  
日々と雪

静寂を忘れた星に  
鳴りやまぬざわめき  
やがては訪れるであろう  
ひとときの恩寵を  
ひとつひとつ  
指折り数える

角のある生きものの息遣いと  
天空からやってくる聖なる人  
真白い袋に包まれてあるのは  
ひとひらの羽と

銀色のスプーン

オレンジの炎揺らめく暖炉の前  
温かなスープを混ぜる  
遠くつながる手のぬくもりを覚えて  
讃美歌のページが風にひるがえり  
窓の向こうの夜闇に  
星々が瞬き始める

「ねむりたもう いとやすく」※  
「ねむりたもう いとやすく」※

開きかけた  
いくつものくちびるが  
途絶えぬ祈りをかたどってゆく  
降りそそぐ光の粒子が  
ゆっくりと舞い続ける  
スノウドーム

羽も 星も 雪も 日々も 永久に包まれて  
丸い星の柔らかな春を  
待ち続ける

※引用 マーガレット・ワイズ・ブラウン 文・ヘニー・モン  
トレノール 絵 矢川澄子訳クリスマス・スイプ(ほる出版)



### テッポウユリ奇譚 小島きみ子

（誰も見えない間に舟になる」と書き残したのは survive でした。な。きょうは月食ですからあなたの手紙の言は、月の舟になるのでしょうか。寂しくてあるい、秋の夜の舟が昇りましたよ。神の鍛錬された言のヒジョンが論理の瞬きとなって冷えた目に零れるとき、此の世の困難を越えて愛の苦しみ、病の苦しみ、生きる苦しみを越えてゆけるなら……わたしは決然と目を上げて月の傘を扶く。金色に色づいた蔓草の実が掌のなかで物事の理を離かすように、あたたい指を重ねあう……

僕らは新種のテッポウユリの球根だった。こんな雪深い山奥の農場の温室で僕らが育ったなんて誰が知るだろう。七月のまばゆい白い花びらと、悶絶するかぐわしい薬の香りは、何者をも寄せ付けなかった。僕らは今、辿り着いたのだから……月食を十二回経験すると、百合の芽に変化が起きたのは千年も前のことだった。おとき話なんかじゃなくて本当の話だったけれど、誰もそのことで何かが変わるなんて思っていない。原種のテッポウユリは何処で生まれたと思う？ 誰も見えない知らない間にここで生まれたのだ。

受胎告知される聖母マリアに差し出されている白ユリは薬のあるものと無いものがある。人間的な、あまりに人間的な故に、あまりに非人間的な、聖母マリアの受胎告知の純潔の画は、寛大な、あまりにも寛大なマリアへの愛を示したヨセフでしたから、ダ・ヴィンチの受胎告知は人間的な、あまりに人間的なヨセフへの敬愛を示しているのだ。

テッポウユリの球根を掘り出し越冬させる十一月……地上の何処にいても月は見えます。あなたが夜空を見上げるとき濡れた月の光を浴びて、光を浴びて。りんりと冴えわたった信実の言の生と死の nature の深淵を知るだろう。誰も知らない、誰にも見えない舟をあなたに届けるために「束の間」の命を束の間でも住みよくするために「私も（誰も見えない間に舟になる）」のです。

註 二重括弧内引用は夏目漱石「草枕」より。



### そのときに 久野雅幸

空は  
届かないもののゆくところだ  
届かないものゆくところだ  
ぼくの気配に驚いて  
草むらに逃げこんだ  
トカゲ

小さな爬虫類  
白亜紀までは  
あんなに大きなものがいて  
地上を支配していたのに

小さなシダ類  
石炭紀には  
巨大に育ち  
地上の植物界を制圧していたのに

ベルム紀には巨大なものもいたというトナボが  
いま 電線にたくさん止まっている

デボン紀には地の穴の中といったというクモが  
いま 樹間に大きな網を張っている

古生代から 中生代 新生代と  
層をなしているのは  
地層ばかりではないね  
この地上にも  
境の見える  
層があるね

草むらに逃げこんだ  
臆病な爬虫類

いつかぼくたちも  
あんなふうに  
臆病になるときがあるのかな

届かないもののゆくところだ  
届かないものゆくところだ

かつて  
恐竜が鳥になったように  
そのときには――  
ぼくたち  
うまくなにかになれるだろうか

伝書鳩を飛ばせ 未来のわれわれへ  
ノイズの闇の谷を越えて  
われわれは知らない  
鳩がどこへ飛んでいくのか  
鳩は知らない 自分が  
どんなメッセージを運んでいるのか  
手書きで書かれた手紙を  
目の弱いわれわれはもう読めない  
読まれないとわかっている  
手紙を鳩は谷に落とす  
足にむすんでいる荷が重たいと  
鳩は忘却を谷に落とす  
真理を突き止めるのは学者の仕事  
幸せは平坦な道を歩くことにある  
崖の縁に住むわれわれは吉報を待つ  
飛び立つた鳩はどこへ行ったのか  
伝書鳩を飛ばせ 明日のわれわれへ  
伝書鳩を飛ばせ 昨日のわれわれへ  
雷が鳩を撃つしかし飛び続けると  
伝説は語りわれを慰める  
なにも知らずに生まれ  
なにも知らずに死ぬ 鳩の糞  
幻に聴く鳩の羽ばたき  
黄昏に見る翼の影  
鳩は沈む太陽になにかを読む  
なにかが鳩の心の虚空を落ちていく  
谷の向うに住むわれわれはどんな幸せを営むのか  
谷の向うがあると信じるわれわれは不幸を醸むのか  
地図もなしに飛ぶ鳩  
でたためな方向の希望そして徒勞  
時間とは消えた手紙  
文字とは消えた時間  
鳩は言葉を谷に落とす  
言葉は谷底で堆積し四散する

### 伝書 池田 康

伝書鳩を飛ばせ 未来のわれわれへ  
ノイズの闇の谷を越えて  
われわれは知らない  
鳩がどこへ飛んでいくのか  
鳩は知らない 自分が  
どんなメッセージを運んでいるのか  
手書きで書かれた手紙を  
目の弱いわれわれはもう読めない  
読まれないとわかっている  
手紙を鳩は谷に落とす  
足にむすんでいる荷が重たいと  
鳩は忘却を谷に落とす  
真理を突き止めるのは学者の仕事  
幸せは平坦な道を歩くことにある  
崖の縁に住むわれわれは吉報を待つ  
飛び立つた鳩はどこへ行ったのか  
伝書鳩を飛ばせ 明日のわれわれへ  
伝書鳩を飛ばせ 昨日のわれわれへ  
雷が鳩を撃つしかし飛び続けると  
伝説は語りわれを慰める  
なにも知らずに生まれ  
なにも知らずに死ぬ 鳩の糞  
幻に聴く鳩の羽ばたき  
黄昏に見る翼の影  
鳩は沈む太陽になにかを読む  
なにかが鳩の心の虚空を落ちていく  
谷の向うに住むわれわれはどんな幸せを営むのか  
谷の向うがあると信じるわれわれは不幸を醸むのか  
地図もなしに飛ぶ鳩  
でたためな方向の希望そして徒勞  
時間とは消えた手紙  
文字とは消えた時間  
鳩は言葉を谷に落とす  
言葉は谷底で堆積し四散する

### (クリスト・ヴラディミロフ・ジャヴァアチェフの計報)

たなかあきみつ

指先のスナップをきかせるには試練  
蒸着した銀紙をヨグルトの蓋から剥がすと  
せつせとあらゆる対象を包み込む  
たとえマレーヴィチの無対象であれ  
包み込めば針金による梱包との差異が明らかになる

ここは最果てシヤンクレール  
《狼の足跡のある線》が通過する  
空無を梱包する都市IIシートを緩慢に泳がせ  
エアゾルは浮遊する礫となるだろう

ダークイエロウの埋没林の《水中展示室》を模写しよう  
ダークレッドに照らされた新橋や空白部分  
同時に包み込まれる間の橋脚だろうと  
死後の開幕II凱旋門だろうと

その他都市の筋肉疲労の節々だろうと  
すべて面長の哲学者のような風貌に封入される  
魅了される

たとえば銀髪建造物やざらつくアスファルトジャングルを  
2B鉛筆の芯は縦横無尽に疾走して象れ  
彼にとつてベルリンの壁の残骸や  
ラストベルトに充滿する《湿った》埃と鉄錆に  
加えて卓上の果皮の青黴の微粉の散布は果して  
もつぱら写真家のシャッターの領分なんだろうか

かくて血染めのジュエットの布目は微風でもほじけるだろう  
かくてブルガリア出身の現代美術家にして環境芸術家の計報は  
六月初めの日付変更線を跨ぐ  
ドニゼッティのアリアのピアノ伴奏のように

【補註】  
《狼の足跡のある線》IIジェル・ドウルズ&フェリックス・ガタリ(千  
のプラト)に収録された写真の引用。  
血染めのジュエットの布目IIルネ・シャル&サウ・ウキーの詩画集(ジ  
ユート袋のほつれ)の表紙絵。



行方不明のメッセージは流れ  
底を削り谷をいつそう深くする  
暗い長い夜  
伝書鳩の飛来だけが希望  
鳩が飛び去ると心に鳩の形の穴があき  
鳩が飛来すると鳩は心の穴にまり消える  
メッセージを読んだためしはない  
メッセージは読むものではない  
今日のわれわれは明日のわれわれと同じ  
平坦な道を歩くのが幸せなら同じ  
手紙もいらぬし鳩もいらぬ  
しかしわれわれは伝書鳩を飛ばす  
それは純粋な希望  
平坦な道を歩くだけではいけない  
手紙は告げる  
時候の挨拶なのだが  
伝書鳩を飛ばす これは  
決死の飛行を見る儀式  
伝書鳩は飛ぶ 山越え閣こえ  
誰も知らないメッセージゆわえ  
崖の縁の不安をゆわえ  
誰も知らない国へ

### ほとり 生野 毅

左手だけで漕ぐ  
握っている枯れ枝で 漕ぐ  
ほとりで外したのは  
きみの背中のホックだったか  
それとも 背中から両手を廻して  
胸元のホックを 外したのだったか  
そもそも どこをほとりで  
外したのだったか  
いまや枯れ枝の 僕の右手が  
思い出せるはずもなく  
底のほうで折り重なる  
たぐさんの 外されたきみの  
どのほとりに  
枯れ枝の指先が 触れているのか  
見当すつかない  
左手を休めつけないと  
ほとりへ漕ぎ着けなかった  
たぐさんの枯れ枝が  
もはや たぐさんのきみを  
外すこともなく  
ひたすら右手を ほとりへ  
引きこもうとする

